

(13) 教科内容先端研究センター**① 設置の趣旨（目的）及び組織****ア 組織設置の趣旨（目的）**

教科内容先端研究センターは、先端的な専門諸科学の知見に立脚し、先端技術を活用しつつ、次世代のための教科内容を研究・開発することを目的として、令和元年10月1日に設置された。

イ 組織の構成及び構成員等

組織は、センター長1人及び教授7人、准教授3人、学外研究員2人で構成され、事務は研究連携課が担当している。

② 運営・活動の状況

連続フォーラムを全3回実施した。フォーラムは、主題を「地域課題からみた学校教育の将来像」として、各回のテーマを第1回「こどもが参画するまちづくり：宮崎県都農町における「まちづくり×教育の挑戦」」（講師：株式会社イツノマ代表取締役・中川敬文氏）（令和7年1月22日、人文棟301教室）、第2回「ライフサイエンスからみた発酵食の可能性」（講師：東京農業大学教授・前橋健二氏）（令和7年2月19日、オンライン）、第3回「〈アート思考 Art Thinking〉とは何か — STEAM教育のこれまでとこれからを考えるために」（講師：アート思考キュレーター・若宮和男氏）（令和7年3月15日、オンライン）と題して開催した。フォーラムの録画を希望者に動画配信サイトにおいて公開した。各回とも、学生、現職教員及び一般市民を対象に開催され、講師による講演会の後、トークセッションで質疑応答を行い、今後の学校教育の教科内容のあり方について共通理解を得た。連続フォーラムの開催にあたり当センターの教員が、内田エネルギー科学振興財団が公募する助成事業に応募し、3件採択された（前年度比同）。対面による講演会の開催方法についても大教室で参加定員を限定し感染症予防に配慮し、オンライン企画ではリアルタイム参加と同時に希望者に録画を配信する等の工夫をして教育DXの可能性を追求した。

今後も外部資金を獲得できるよう助成財団へ応募し、セミナー、フォーラムを開催することで、学校における教育課題に関わる質の高い連携と支援体制の整備及び全国的な先行モデルや先端的コンテンツを発信できるよう取り組む。

③ 優れた点及び今後の検討課題等

連続セミナーでは、本学関係者を中心に教員養成・教科内容の焦眉の課題を念頭においた企画内容とし教科横断的な課題意識の啓発がなされた。連続フォーラムの第1回目では、まちづくりという視点から教育課題について取り上げ、地域自体を学びの場とする教育活動の重要性が再確認できた。また、2、3回目では教育DX推進の観点から遠隔地の外部講師によりオンラインで実施し、リアルタイムに受講できない参加希望者のために、YouTubeによるオンデマンド配信（限定公開）を行った。いずれの企画もその概要をFacebookや地域紙を通じて発信した。今後は、引き続き教育関係機関への支援機能を果たしていくとともに、学校における教育課題に関わる質の高い連携と支援体制の整備及び全国的な先行モデルや先端的コンテンツを発信することのできる体制の整備、学外研究員との連携のさらなる発展を模索する予定である。